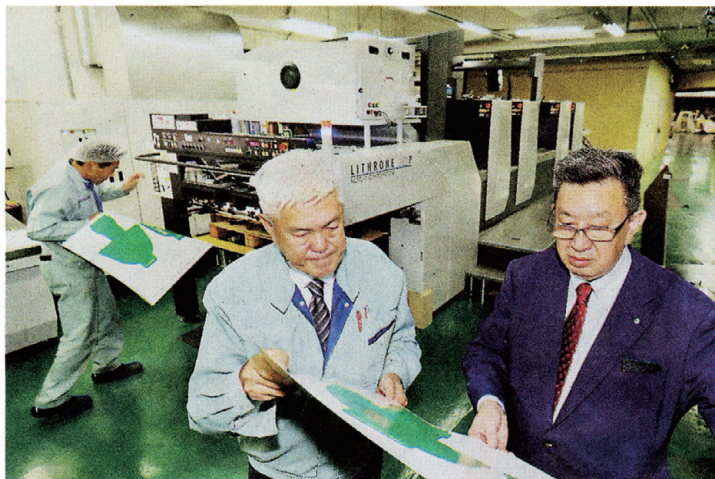


札幌圏 わがまち元気企業

岩橋印刷＝札幌市西区



岩橋印刷が導入した最新印刷機の仕上がりを見る熊田賢治社長(右)と高山裕工場長(岩崎勝撮影)



▽本社 札幌市西区西町南18

▽事業内容 総合印刷業

▽資本金 5千万円

▽売上高 6億円(2023年12月期)

▽従業員数 48人

色に自負 最新機で効率化

官公庁に納める資料、込みチラシや菓子店の包装紙や市民団体の周年史、装紙まで幅広い仕事を受ける総合印刷会社。

国内唯一の紙幣印刷機を製造する会社「小森コーポレーション」(東京)から、8月に数億円をかけて印刷機を購入し、メインに据えた。品質の高さはもちろん、印刷スピードが2割弱上がり、使用電力を45%削減できる。万が一の印刷ミスが生じた場合もカメラで検出できる機能を備えている。熊田賢治社長は紙離れにより印刷業務は減少傾向としつつ、「効率化は人手不足の緩和や社員の働き方改革につながる」と大規模な設備投資を決断した。

1922年(大正11年)に故岩橋周作氏が創業。市内の印刷業で老舗企業の一つで、道内の顧客を中心に一貫して印刷物の製造を続けてきた。熊田社長は7代目。

公官庁などからの部数の多い依頼だけでなく、数百枚単位の年賀状の相談にも乗る。同じ町内会にある店の店主が気軽に印刷依頼に来ることもあり、地域密着の姿勢は創業当時から変わらない。

同社は2008年、より忠実に色を再現して印刷するデジタル処理技術を商標登録した。中村直人副社長は「業界内では色にこだわるなら岩橋と言ってもらえている」と技術力への自負をのぞかせる。プロの写真家からも印刷の依頼を受けており、高山裕工場長は「プロの期待に応える質の高さを維持している」と語る。

正社員の平均年齢は38

・6歳。採用にも力を入れ、ここ数年は大学新卒者や専門学校卒業生も採用し若返りを図る。熊田社長は「最新機器の導入で若い人が少しでも印刷に興味を持ち働きたいと思う会社になりたい」と話す。

(坂口光悦)